

「故郷」 授業プリント 1

3年 () 組 () 番 ()

- 1、学習のねらい
- ① 状況や時代を考えて読み、社会と人間を考える。
- ② 語句や表現から、心情、作者の意図を読み取る。

2、登場人物

わたし	主人公。シュン。(昔) 金持ち。(今) 衰退。故郷を離れて二十年
ルントウ	(昔) 友人。つやのいい丸顔。きれいな服装。
(閨土)	(今) でくのぼう
ヤンおばさん	(昔) 「豆腐屋小町」美人。 (今) 頬骨の出た、唇の薄い、皮肉屋。物を盗む。
母	故郷で暮らしていた。身分にこだわらない。
ホンル	わたしの甥。(かつてのわたし)
シュイシ	ルントウの子。(かつてのルントウ)
ヨン	

3、物語の舞台と時代背景

大きな動揺期の中国社会↓圧政に人々はすさみ、暗い時代。

4、「故郷」を読んで感じたこと…考えたこと

疑問点など

「故郷」 授業プリント 2

5、次の風物や人物について、「わたし」の思い出と現実では、どのように変化したか、描写に着目して書き出しましょう。

故郷の眺め	我が家の様子	さんおばさん	ルトウ
<p>「わたし」の思い出</p> <p>＊もっとずっとよかった。</p>	<p>＊三十年近い昔は、「わたしは坊ちゃん」でいられた。</p> <p>「マンユエ」を雇うくらい</p>	<p>＊豆腐屋小町↓「美人」</p> <p>＊おしろいを塗る</p> <p>＊頬骨も出ていない</p> <p>＊唇も薄くない</p>	<p>＊つやのいい丸顔</p> <p>＊毛織りの帽子</p> <p>＊きらきら光る銀の首輪（溺愛）</p> <p>＊「おまえ」「シュンちゃん」</p> <p>↓対等の立場</p>
<p>現在の様子</p> <p>＊わびしい村々が、いささかの活気もなく、あちこちに横たわっていた。（病人のよう）</p> <p>→擬人法 ←</p>	<p>＊枯れ草のやれ茎が、この古い家が持ち主を変えるほかなかった理由を説き明かし顔である。</p>	<p>＊頬骨の出た、唇の薄い五十がらみの女</p> <p>＊まるでコンパスそっくり</p> <p>＊まるで、フランス人く嘲るといった調子</p>	<p>＊黄ばんだ顔の色／赤くはれた目</p> <p>＊古ぼけた毛織りの帽子</p> <p>＊深いしわ／でくの坊のような人間</p> <p>＊太い、節くれだった、ひび割れた松の幹のような手</p> <p>＊「旦那様」↓主従関係</p>

＊思い出の風景はキラキラと輝き、魅力的
↓現在の様子は活気もなく、すさんでいる。

メモなど

「故郷」 授業プリント 3

6、「わたし」の心情は二十年前と現在ではどのように違うのか。
故郷に対する
心情
ずっと美しいと思っていたが、今は鉛色の空の下、わびしい村々が、いささかの活気もなく、まるで病人のよう。

我が家に対する
心情
＊三十年前は、暮らし向きも楽だったが、今は荒れたわびしい様子↓仕方ないというあきらめ

ヤンおばさん
に対する心情
昔は豆腐屋小町とよばれる「美人」だったが、今は生活の苦しさから人間がすさみ、嫌みな女性になっている。

ルントウに
対する心情
昔は自分の知らない世界を知る「小英雄」だったが、今はすっかり生活にいじめられた「でくのぼう」

なぜ再会後、私は言葉を失ったのか

7、再会した「わたし」と「ルントウ」との関係の変化を最も象徴的に表した部分を抜き出そう。

会えて嬉しい・立派になって遠く感じる ←
彼は突っ立ったままだった。喜びと寂しさの色が顔に現れた。唇が動いたが、声にはならなかった。最後に、うやうやしい態度に変わって、はっきりこう言った。 身分の違いを優先

「だんな様！ ……」 ↑昔は「おまえ」「シュンちゃん」

わたしは身震いしたらしかった。悲しむべき厚い壁が、二人の間を隔ててしまったのを感じた。わたしは口がきけなかった。

8、「わたし」と「ルントウ」の生活の違いを考えて、二人の間になぜ隔たりができたのかを考えよう。

知事になったわたしに対して、ルントウは現実にいじめられ。自分の境遇をあきらめているから。

「故郷」 授業プリント 4

9、「わたし」は「希望」という言葉を思い浮かべるが、「わたし」が「ホンル」と「シュイション」に望む社会を考えよう。

① 望まない生活

- ・ わたしのように、おだの積み重ねで魂をすり減らす生活
- ・ ルントウのように、打ちひしがれて心が麻痺する生活
- ・ 他の人のように、やけを起こして野放図に走る生活
- ② 彼らに望む生活
- ・ わたしたちの経験しなかった新しい生活

10、次の情景が描写している「わたし」の気持ちや状況やを考えよう。

空模様は怪しくなり、冷たい風がヒューヒュー音を立てて、船の中まで吹き込んできた。苦のすき間から外をうかがうと、鉛色の空の下、わびしい村々が、いささかの活気もなく、あちこちに横たわっていた。

不安感・さびしさ・暗い・わびしい・病気のよう・栄えていない

紺碧の空に、金色の丸い月が懸かっている。その下は海辺の砂地で、見渡すかぎり緑のすいかが植わっている。

幻想的・不思議・神秘的・美しい

「故郷」 授業プリント 5

11、「手製の偶像」（教科書P119）について

偶像＝頭の中にしか存在しない

ルントウにとっての偶像

香炉や燭台(宗教の道具) 銀の首輪

わたしにとっての偶像

若い世代に臨む新しい生活 希望

↓歩く人が多くなれば、それが道になる(皆が望めば実現する)

12、感想をまとめよう。

(心に残った言葉・人物・自分が学び、実行していこうと思うこと)